

令和5年11月22日～25日

# 海外管外調査報告書



神戸市会

台湾訪問議員団

# 神戸市会台湾訪問議員団の海外視察報告書

令和6年3月1日

神戸市会台湾訪問議員団団長 平井真千子

しらくに高太郎

植中雅子

上島寛弘

(以上、自由民主党神戸市会議員団)

住本かずのり

外海開三

黒田武志

なんの ゆうこ

岩谷しげなり

(以上、日本維新の会神戸市会議員団)

神戸市会台湾訪問議員団は11月22日より坊神戸市会議長とともに台湾を訪問し、藩前屏東県前知事や外交部亜東太平洋司張公使、また、交通部、僑務委員会、新竹県、基隆市議会、タイガーエア社それぞれの幹部を表敬訪問し神戸との交流について意見交換を行った。先ず23日には藩前屏東県知事を表敬訪問しコロナ禍の際に屏東県から多大な支援を頂いたことにつき感謝を改めて表明した。また、外交部張公使とは自治体間交流の将来の可能性につき話し合うとともに神戸空港への台湾機の乗り入れの見通し等につき意見交換した。24日にはタイガーエア社と交通部を訪問し、それぞれ神戸空港の国際化に伴う台湾機の乗り入れと相互の観光促進策につき意見交換し、また、在外華僑を所管する僑務委員会の阮副委員長とは神戸空港の国際化と相互交流の可能性につき話し合った。25日には桃園市を訪問して観光交流と文化交流等につき意見交換したほか、桃園メトロの実地視察を行い、25日に帰国したところ、本訪問団の海外管外調査報告書を以下の通り提出する。

## 第I部 台湾訪問議員団の視察報告

1. 桃園空港 MRT (Taiwan Taoyuan International Airport Access MRT System) 試乗 (11月22日) (担当：外海開三)

台湾桃園国際空港到着後、台北市内への移動手段として桃園空港 MRT に乗車する。桃園空港 MRT は2017年3月2日に台北車站駅一環北駅間が正式開業。路線全長は51.03km。全線が桃園捷運の路線、機場線として運営される。現在、中壢駅への延伸が計画されており2028年7月開業予定。桃園空港 MRT 路線は各駅停車の普通列車(普通車)と主要駅5カ所に停車する快速列車(直達車)の2種類があり、台湾桃園国際空港から台北車站駅まで普通列車が約50分(荷物置き場な

し)、快速列車が約 35 分（荷物置き場あり）で運行。普通・快速各 15 分毎の終日 7.5 分間隔で運行されており、運賃はともに NT\$150（当日レートで約 710 円）となっている。切符購入方法は、プリペイド式電子マネーの一卡通（iPASS）、プリペイド式交通 IC カードの悠遊卡（ユーユーカード）及びクレジット決済、現金等であり、券売機は英語、日本語を含む 10 ヶ国語対応。特筆すべきは、MRT では紙の切符ではなく、繰り返し使えるトークンと呼ばれるコインを使用しており、この取り組みは神戸市においても参考にすべきであると考え。全駅構内及び全列車内での飲食は禁止であり、無料 Wi-Fi が提供されている。



また、台北車站駅ではインタウン・チェックインカウンターを設けており、最終日も手ぶらで搭乗時間まで市内観光ができることから、利用者より好評を得ているようだ。神戸市においても、昨年神戸港を発着するクルーズ客船に乗るため神戸空港を利用する乗客を対象とした手荷物輸送サービス KOBE PORTER の実証実験を行ったが、2025 年の神戸空港国際化を控え利用者の利便性及び満足度向上のためにも、三宮から神戸空港までのインタウン・チェックインカウンター導入に向けた検討を願いたい。

阪神電気鉄道（阪神電気鉄道株式会社）と桃園メトロ（桃園大衆捷運股份有限公司）は、2019年1月に、日台間の観光振興を目的に相互送客に取り組み、あわせて両社の持続的な発展を実現するための協力体制を構築する相互協定を締結しており、本協定を基に

- ・両社の広告媒体を活用したプロモーション
- ・両社の鉄道による沿線観光を促進させるツール開発
- ・両社沿線の野球場をはじめとした観光施設を活用した相互送客キャンペーン

などについて両社で取り組み、我々が乗車した際にも車内で神戸観光PR動画が放映されており、この取り組みは日台間の観光振興促進に大きく寄与していると感じた。



## 2. 潘孟安前屏東県知事表敬（11月23日）（担当：しらくに高太郎）

コロナ禍において、日本からまた神戸からワクチン接種や防護用品などの提供を受け、感謝の意を表明され、ぜひ落ち着いたら屏東県に皆様をご案内したいとの意向も示された。

頼副総統は、本日台南に出ており不在にしている。ところで、頼副総統のご親戚の  さんの出生地は神戸であり、その父はキリスト教の牧師で神戸を活動の拠点にされていたので、神戸とは大変縁のある関係である。改めて訪台の御礼が示された。

ご存じの通り、神戸港と屏東県港とは大変良好な関係であり、非常に強いパイプがあると認識しているので、今後神戸空港の国際化が実現されれば、空港同士の関係も築いていきたい、との見解も表明された。

坊恭寿議長からは、主に以下の内容のコメントが発せられた。本日の歓待に恐縮し改めて感謝申し上げます。潘前知事からも示されたように、神戸も同じくコロナ禍に罹患者が増加している時に、医療用ガウンやマスクなどをご提供いただいたことは、涙が出るほど嬉しかったことを覚えている。神戸の震災時や東日本大震災時、また安倍晋三元総理の訪台時にも蔡英文総統からもご支援のお気持ちが示され、感謝の意を伝えた。大陸の力が強くなればなるほど、日本と台湾の関係は益々強くなるものである。今以上に平和で豊かに、互いが生きていけるよう努力して参りたい。



藩前屏東県知事と

### 3. 外交部亞東太平洋司（台湾日本關係協會）張仁久 公使回部辯事（11月23日）

（担当：住本かずのり）

まず、張公使より歓迎の挨拶があった。張公使は1984年入省して、来年で40年目になる。公使は本省の勤務であるが、日本とは国交が無いので公使名称は日本では使用できない。子どもの頃、父親が大阪で総領事をしていたこともあり西宮に住んでいたとのことで、神戸は大変親しみがある街である。1972年に日中国交正常化に伴い、台湾との国交断絶とともに帰国となった。夙川小学校での卒業証書がもらえなかったことが非常に残念である。一昨年、神戸で日台サミットが開催され、500名近い全国の自治体議員が集まってくれたことは大変喜ばしいことである。来年は日台サミットが7月、台南市で開催予定であるので、是非来てほしい。

坊議長より、一昨年のコロナ禍の時期に、医療物資の支援を頂いたことの謝辞を述べる。阪神淡路、東日本、熊本などの震災時の物資支援、安倍総理が亡くなった時の弔電など重ねて御礼を述べた。先日行われた神戸マラソンでは、外国人500名参加のうち、台湾からは約100名の参加者があったことも有難いことである。神戸空港も国際化が決まり、2025年より国際チャーター便から始まり、2030年に国際定期便が発着するようになる。大阪市内にも関空より早い時間で行けるようになり、便利な空港であるので、是非、神戸台湾間の定期便を運航してもらいたい旨も要望する。明日、タイガーエア（LCC）に訪問して、就航に向けての意見交換、就航依頼をする予定である。より一層、台湾と強い絆をもてるよう祈念したい。

それに対して、張公使は、コロナワクチンを420万個日本から頂いた。コロナが明けて6月末時点だが、200万人が訪日している。神戸空港が国際化され、直通便が運航されるようになるとも

っと多くの人が台湾から神戸にいくだろう。2011年より航空交渉は関空会社とこちらの航空会社同士の交渉でいけるようになってきているので、EVA、中華航空系は必ず神戸に定期運航するだろうということである。産業連携、観光交流、それ以外にも神戸とは新しい連携をしていきたいとのことであった。

更に、現在、台湾と日本の各自治体165都市で友好交流協定を行っている。自治体同士で調印ができるので、神戸からも台湾各都市との希望があれば私からも推薦したいという言葉をもろう。各都市とは様々な分野別連携をしており、自治体同士予算化しやすく密に連携ができる。

例えば、子ども同士（教育間）の交流もある。神戸と台中とオンラインで繋ごうという計画もある。これは時差が少ないので、非常に可能性が高い計画である。就学旅行を通じて、文字や言葉で交流という方法もあり、子どもたちは日本のアニメが大好きであり修学旅行などで行き来できるのではないかとのことであった。

#### 【質疑応答】

黒田議員）実のある交流が必要であると考えているが、TSMCと熊本市が連携しているが、神戸、兵庫との産業連携はできないのか。

張公使）それはあり得ると思う。安全保障分野は少しデリケートな部分であるので国家間との話となるが、産業であれば自治体友好協定のうえて積み上がって達成できると思う。教育旅行は5万人の中高生と交流しており、修学旅行協会は当初、中国、韓国とのみ交流をおこなっていたが、その後台湾が入り、話が進んでいった経緯がある。

黒田議員）富裕層の旅行の動向は。

張大使）少し今のところ動向は分からないが、若い人が日本に行く傾向がある。

植中議員）台湾では、女性の市長・議員が多いと感じる。女性リーダーが生まれやすい環境があるのか。

張公使）台湾の女性は非常にポジティブである。外交官試験などは6割の受験者が女性である。全体的にそういう感じなので、女性がチャレンジすることについては躊躇がないのではないかと。

岩谷議員）大阪・関西万博での台湾参加は企業で出展されるとの事であるが、進んでいるデジタル分野で世界にアピールするのか。

張公使）本当は国家としてパビリオンを出展したいと思っているが、中国があるので万博条約に適した形でしか参加できないのが残念である。将来は国としてパビリオンを出展したい。名古屋（2005日本国際博覧会）の時では企業参加もできなかった。20年後の万博では国でパビリオンを出展したいと思っている。

住本議員）神戸空港国際化に伴って、台湾から多くの方を誘致したいと思っているのだが、大阪・京都・奈良との差別化が必要と思っている。そこで、神戸の環境を考えると、体験型観光（例えば、六甲山トレッキング、自転車、マラソン、ゴルフ等）を売りにすればどうかと考えるが、台湾の方に受け入れられるだろうか。

張公使) それは大変魅力的で良い方向だと思う。特に、自転車なども大好きで台湾ではG I A N T という自転車メーカーがあり有名である。しまなみ街道などは台湾から多くの方が、自転車を持って行っている。若い人はアクティブであるのでそのような体験型ツーリズムは売れるのではないかなんの議員) 台湾の子育て支援についてお聞きしたい。

張公使) 台湾も出生率が1を切っており、少子化が深刻化している。政府は子ども出産補助を出しているが効果はあまり出ていない。日本と同じ問題であり、難しい課題である。今後は人口減少していくことは間違いない。台湾は給料が低く、そのため結婚できないので給料を上げることが最優先課題である。あとは、女性が出産後1か月は仕事を休まなければならないため、産後ケアの問題が重要であると考えます。

しらくに議員) 台湾の人の宿泊地は神戸が一番多いという情報があるが、公使から見て神戸の印象は。

張公使) お洒落で、きれい、港町、食べ物が美味しい。若い人はファッションablであるので、ファッション、食は重要なテーマである。隣に座っている外交部員の□□は神戸大学法学部研究科出身であるので、神戸の印象は彼の方がよく知っているのではないかな。

最後にお土産の交換、記念写真等を撮って再会を約束して協会を後にした。



外交部張公使と





4. 新竹県 県史館、美術館視察と意見交換並びに楊文科県長、張鎮栄県議会議長、邱鑑淳前県長  
表敬（11月23日）



新竹県とは、2014年の「新竹県と有馬温泉との友好交流に関する覚書」の調印をはじめ、神戸市会議長や日台湾友好議連が訪問等を活発に行ってきたところである。今回も、有馬温泉観光協会からの訪問団も新竹県で合流し、交流を行った。

新竹県県史館では同県の歴史の説明を受けたが、中には温泉へ人や荷物を運ぶトロッコのようなものが展示してあり、同県の温泉の歴史を感じさせるものであった。また、隣接する美術館では、新竹県が台湾の著名な漫画家の出身地であることから、同漫画家の作品展示が行われていた。

今回は有馬温泉観光協会幹部が台湾での温泉のインフルエンサーと共に新竹県を訪れており、日台友好議連としても両者間の交流と観光振興の動きを後押ししていきたいと考えている。

【新竹県県史館視察】（担当：植中雅子）

2008年の開館以来、新竹県の歴史文化を積極的に発掘し、県民一体となって歴史を書き残し記憶の保存と文化の伝承に努め、郷土史データベースの役割を担っているとのこと。

新竹県政府陳李媛秘書長自らご案内の下、入館早々に、1階の展示ロビーに於いて、新竹の各種古地図「タイムトラベルで見る新竹」や、先人が残した写真で新竹の歴史的な大事件を解説する「時代を撮る」等、新竹県100年の歴史と物語のパネル展示を見せていただきました。

写真で見る当時の人々の暮らしは日本とよく似ており、違和感なくその昔にタイムスリップができました。

特に、富裕層が温泉へ湯治に行く際の、車輪付き板に固定された椅子を並べただけの乗り物には驚きましたが、当時では誠に新しい発想であったと感心いたしました。

記録を読み写真を見ることで、当時の新竹の人々の暮らしをととも、身近に感じることができます。

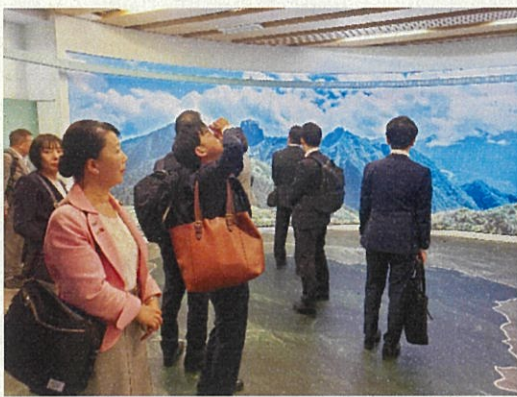
ホール2階には、詩人・杜藩芳氏の詩を書道家・曾子雲氏が描いた作品「平安劇」が飾られています。他にミュージアムショップや特別展もあります。常設展の「水・土地・私たちの物語」での、遠い祖先が安住の地に辿り着くまでを再現した（源流を遡る）、開墾の生命力を感じさせる（狩場から田園へ）、日本統治による近代化と新竹の変遷を紹介する（新竹の変遷）、飛躍を遂げようとする現在の新竹県を知る（新たな楽園）の4つのテーマの展示が印象に残りました。

祖先を敬い、国を想い、新竹を愛する気持ちが伝わってきます。

私達日本人の、国を想う気持ちの希薄さを恥ずかしく思いました。

我々が次世代に、自分の国を愛する気持ちどのように伝えていくべきか！

大きな課題であります。私達の責務でもあります。



【新竹県美術館視察】（担当：植中雅子）

10月20日～11月26日まで、新竹県優秀芸術家である劉興欽氏の「傳承・歸真 劉興欽 90 特別展」が開催されており、タイミング良く視察をさせていただきました。

新竹の人々の日々の暮らしが可愛くユーモラスに漫画で描かれており、私達日本人も一昔前は同じように暮らしていたのだと、大変懐かしい思いで鑑賞させていただきました。

新竹県は起伏に富んだ地形と温暖な気候に恵まれ、農産物の栽培が盛んです。

子供達が畑仕事や魚釣りをしている服装も色彩豊かで、様々な遊びに興じている様も楽しそうでのびやかで、見ていて思わず笑みが出ます。

新竹県の客家民族の人口は、県全体の84%を占め、典型的な客家文化の県として知られており、美術館の中にも客家料理が展示されていました。

山海珍味の大変なご馳走で、お客様のおもてなしには欠かせない料理とのことでした。

今日は、インバウンド誘客と新竹県との更なる観光・経済交流促進の為に、新竹県をご訪問中の有馬温泉観光協会の役員の皆さんと共に県史館と美術館を視察させていただきました。新竹県政府陳李媛秘書長から、坊議長を始めとする議連議員全員に、劉氏の絵がプリントされた手提げ袋と帽子をいただきました。



#### 【新竹県公館 訪問】(担当：植中雅子)

県公館を訪問し、楊文科県知事・邱鏡淳前知事と会談・意見交換をさせていただきました。私は日台友好神戸市会議員連盟の一員として、3度目の新竹県訪問であります。いつも温かく迎えていただき、旧知の方々とも久々にお会いし、旧交を温めさせていただきました。新竹県は、台北からバスで約1時間。自然が豊かで、漢民族の一派である客家の人々が多く住んでおられます。また、台湾の基幹産業であるハイテク産業の盛んな地でもあります。新竹市の郊外には、パソコン・通信・

半導体などの IT 関連企業が集中する、世界的に有名な工業団地「新竹サイエンスパーク」があり、台湾のシリコンバレーと呼ばれています。観光面では、有馬温泉観光協会と長年にわたる交流を重ねて、日台間の観光客の拡大に努められています。

去る 6 月 21 日にも楊知事ご夫妻・邱前知事ご夫妻等が有馬温泉に来られ、議連有志でお迎えし、ささやかな歓迎会をさせていただいたところです。この日は、公館入口のホールで、坊議長がお土産の「福寿」と有馬の竹製品・神戸のスイーツを楊県知事・邱前知事・李議長にお渡しし、楊県知事から議連議員全員と有馬温泉観光協会の皆さんに心づくしのプレゼントをいただきました。

有馬温泉観光協会の皆さんは、今回はチョウザメの養殖ができないかと、飼育場の見学にこられたということです。常に新しいことにチャレンジされる姿勢に頭が下がります。

私達も一步先行く新竹のハイテク産業を学び、追いつく取り組みをしなければなりません。神戸空港の国際化により新竹と神戸の訪問機会が増え、新竹の皆さんとの親睦の輪がさらに広がり、ウインウインの関係が構築できますよう積極的交流に努めて参ります。

#### 5. タイガーエア社・許致遠商務長との意見交換（11 月 24 日）

タイガーエア社を訪問し、許致遠商務長と神戸空港の国際化につき意見交換を行った。訪問団よりは、神戸空港の将来の可能性について、海山に恵まれた神戸の自然の豊かさに加え、神戸の後背地である関西圏と西日本圏へのアクセスの良さ、それに神戸在住の台湾人の数の多さ等に鑑みれば神戸空港の将来のポテンシャルが極めて高いことを説明し、タイガーエア社にとっても利益となるものであるとしてタイガーエア社の神戸空港への国際チャーター便の就航を強く希望するとの要望を行った。許商務長は訪問団の説明に熱心に耳を傾けるとともに 2025 年からの国際チャーター便と 2030 年からの国際定期便の就航についての情報提供に謝意を表した。許商務長の対応からは神戸空港への就航につき強い関心と意欲を有していることが伺えた。



タイガーエア社との意見交換

【タイガーエア社訪問】（担当：黒田武志）

神戸空港国際化に向けた台湾便就航の実現可能性を図るため、タイガーエア社 許致遠商務長兼發言人など5名との意見交換を実施した。





以下、許致遠商務長兼發言人の発言趣旨。

タイガーエア台湾は設立 10 年目で主に日本への航路を展開し、定期便は 18 航路ある。コロナ前から、神戸空港が国際化する情報を聞いており、今後、神戸との交流が広がる事を期待している。本年 10 月 25 日、旅フェアに合わせて神戸市を訪問し、港湾局との意見交換を行なった。コロナ後、台湾の観光客は、東京や大阪だけではなく、より深く日本を体験できるようその他の地域への旅行を楽しみにしている。

神戸空港は、台湾から日本へだけでなく、日本から台湾にも行きやすくなり、両国にとって非常に便利な空港だと理解している。今回、私たちが神戸空港を視察した感想として、国際化の準備ができていると感じている。タイガーエアは、日本では、岩手県・花巻空港、高知県・高知空港などの地方空港にも就航しているが、例えば高知空港は、コンテナ便だけでも成立しており、神戸空港は都市部の空港で条件がより良い。一度でいいので、2025 年までにテスト飛行をできるようなプロジェクトで検討していただきたい。テスト飛行し、実際機体を飛ばすと問題を感じることができる。実現に向け、議会からもぜひ、背中を押していただきたい。



タイガーエアは福岡空港にも就航しているが、佐賀空港も近接しており、両立できている。空港利用者は、自身にとって便利な方を選択し、棲み分けるだろう。

神戸市議会は賛成、港湾局も賛成、神戸観光局も歓迎している、台湾の交通部も了承しているのに、なぜ早く決めて運用させないのか？日本側のどの組織に決定権があり、最終のゴーサインを決めるのは誰なのかが疑問である。決定権のある方を紹介してほしい。

2025年、大阪・関西万博の開催に合わせたチャーター便の就航と聞いているが、準備が整い次第、来年からでも就航したい。空港建設の整備が完了すると管理運営費等、ランニングコストが必要になる。2025年チャーター便、2030年国際定期便を頑なに決めているのか理解できない。準備が整い次第、早期就航に向けたより合理的な判断が必要ではないか。

との意見も出た。

坊議長から「(タイガーエア側の)積極的な思いはありがたく、帰国後、しっかりと伝えたい。神戸空港の運用については、歴史的な背景を踏まえ、慎重に運用の緩和を進めながら調整を行っている。関西3空港懇談会による関空との関係性、神戸空港の国際化は政治的な役割も大きい。関西経済連合会や運営会社(関西エアポート)などの関係機関や、近隣自治体との協議は必要で、これらの調整があることは、ご理解いただきたい。詳細を言及できる立場ではないが、お伝えいただいた思いは理解しており、意に沿うような形でできる限りの努力をしたい。」という趣旨の返答をした。

交通部との次の予定時刻が迫り、今回の話題は夜の僑務委員会で更に詳しく議論することとし、意見交換会は終了した。

## 6. 交通部・祁文中常務次長ほかとの意見交換(11月24日)

訪問団はタイガーエア社との意見交換の後、交通部・祁文中常務次長を訪問して神戸空港の国際化の問題と相互の観光促進策につき協議したところ次の通り。

訪問団より交通部祁文中常務次長に対し、神戸空港の将来の可能性に言及し、台湾の航空会社の神戸空港への乗り入れを強く希望する旨要望した。

これに対し、祁文中常務次長よりは、松山空港（台北）では騒音問題からビジネスユースに絞られ、羽田、ソウル金浦、上海虹橋の路線に絞っているが、日台間ではオープンスカイ政策が取られており他の空港では特に制限はなく、桃園のほか台中や高雄などの国際空港はもちろん、台東や花蓮へのチャーター便の就航も可能であり、サーフィンやサイクリングなどができる台東、花蓮への就航も期待しているとの説明があった。また、桃園空港は第3ターミナルを機能拡張のため、2026年からの供用開始に向けて建設中であり、受け入れられる旅客数も増加するとの説明があった。

観光プロモーションにつき、祁文中常務次長より、日本の地方自治体の熱心なプロモーションに感心しており、一緒にPRの取組を行い、日本からの観光客を受け入れていきたいとの説明があった。また、現在、台湾は高確率で5,000元の電子クーポンが当たる誘客キャンペーンを行っており、熱心に観光客誘致に取り組んでいるところであり、空路だけでなく、基隆―神戸に寄港するクルーズもあり、是非ともクルーズ船の就航についても検討してほしいとの話があった。

訪問団よりは、祁文中常務次長の説明を多とする旨表明するとともに、お伺いしたフライ&クルーズなどの説明については神戸市としても関心を有するところであり、ご要望を当局に然るべく伝達する旨約して会議を終了した。

#### 【交通部常務次長（副大臣）との会談】（担当：平井真千子）

出席者

交通部 常務次長 祁文中氏

交通部航政司 韓振華氏

交通部民用航空局 副局長 林俊良氏

交通部民用航空局 総合企画組 組長 陳昭諭氏

交通部観光署 副署長 林信任氏

#### ● 祁文中常務次長

祁文中常務次長から台湾の空港の港勢などについてご説明があった。冒頭に台湾から最も人気のある観光地である日本、また日本からも最も好きな外国であり渡航先としても第二位の台湾という、良好な関係性について触れられた。しかしまだフライト数はコロナ前の74%に留まっている。

関西とは現在115便が就航しているが、将来神戸との路線ができることを歓迎し、台北以外の中南部の空港との就航も期待している。観光PR、航空会社との連携による相互のPRなど winwin の関



係を期待していると述べられた。

- 坊議長

結成より39年目となる議連の活動について紹介し、2015年からは両国の地方議員が参加する日台サミットを開催、2021年は神戸で開催した際には台湾の関係者にも数多く参加いただいたことに感謝を述べた。神戸空港の国際化では、多くの台湾の方に来ていただきたい、さらに心の距離がより近くなればよい。第一便は台湾の航空会社に飛んでいただきたいと呼びかけた。そのために、観光議連の会長として観光のについても、また全国市議会議長会会長としても様々なサポートができると述べた。

- 航空局、観光署の幹部より説明

今年度、台湾を発着するフライト数はコロナ禍前の74%まで回復した。日本と台湾はオープン・スカイ（航空自由化）により制限が無いのでさらに増やしていきたい。台湾ではコロナ禍に空港の滑走路の補修や新ターミナル整備を進めてきた。現在、桃園空港は新たに第三ターミナルを整備中で2026年には運用開始予定。また、今後神戸空港との路線については、松山空港以外は離発着枠に余裕があるので歓迎している。中南部にもたくさんの空港があるので、選択肢としてほしい。

航空局ではチャーター便の就航に補助金でサポートしている。元からある制度に新規の場合は上乗せで165万円を支援している。

また、海路での旅行需要もある。クルーズ船の利用も。定期のクルーズは神戸にも就航しており、こちらでも両国の往来をさらに活性化したい。

観光については、修学旅行の誘致に力を入れており、ツアーづくりをサポートしている。今年度は把握しているだけでも日本から49団体1527件が訪台した。コロナ前は60,734人が訪れており、こちらはまだ回復させていきたい。

個人客に対しては、2万円の電子マネーが50万人に、さらに総額5億円のホテルクーポンが当たる Lucky Land キャンペーンを2025年6月まで。

行っている。

- 意見交換

最後に出席議員から、神戸空港の国際化第一便は台湾にと希望している旨や、台湾と日本の交流の歴史、また女性活躍やDXなどの社会の先進性について日本の子供達が教育旅行で学べることへの期待の声などがあがった。



交通部との意見交換

中華民國交通部

## 2011 臺日開放天空

- 雙方航空公司可視市場需求開闢往返兩地間的定期航班
- 除日本羽田及台灣松山外無容量班次限制

北平機場  
 南平機場  
 桃園國際機場  
 松山國際機場  
 金門機場  
 臺中國際機場  
 花蓮機場  
 澎湖機場  
 嘉義機場  
 嘉義經松山機場  
 基隆機場  
 基隆經松山機場  
 台北核心機場  
 蘇澳經松山機場

中華民國交通部

## 桃園國際機場第三航站整建工程

- 預計2026年第三航廈容量4,500萬旅客/年
- 目前則正進行基礎工程

中華民國交通部

## 高雄國際機場

- 108年運量750萬人次，係次於桃園國際機場
- 未來將既有二座航廈整合成一座年容量1,650萬人次之新航廈
- 目前則正進行細部設計

新航廈示意圖

## 臺中國際機場

- 目前則正規劃興建第三客運航廈，年容量提升至500萬人次
- 目標於2030年前提供國際線400萬人次、國內線100萬人次年服務容量

## 加速擴大吸引國際觀光客方案

### 促進自由行旅客來台措施

- ◆ 訂定「交通部觀光局辦理加速擴大吸引國際觀光客方案 促進自由行旅客來臺消費金實施要點」
  - ◆ 自由行旅客來台消費金NT\$5,000「遊台灣全福氣 Taiwan the Lucky Land」
  - ◆ 112年11-12月針對日本旅客再加碼日幣5億元(相當新台幣1億元)獎勵措施
- 活動期間** 2023/5/1 中午12時 起至2025/6/30止

參加資格	參加方式	消費金種類
<p>國際自由行旅客 持非中華民國護照 入境停留3天至90天</p>	<p>1. 結算消費金額在日幣1萬元 至法幣1萬元、港幣1萬元 2. 登錄完成即可領取QR CODE 3. 入境當日前往指定入境 大廳法幣兌換機兌換 + 中區遊客管理處領取 消費金 QR</p>	<p>第1種類</p> <ul style="list-style-type: none"><li>1. 電子消費金 (電子消費金卡)</li><li>2. 實體消費金 (實體消費金卡)</li></ul> <p>第2種類</p> <ul style="list-style-type: none"><li>1. 住宿消費金</li><li>2. 交通消費金</li><li>3. 餐飲消費金</li></ul>

## 擴大包機補助增加旅遊誘因

本部觀光局已於112年10月16日修正發布「境外包機旅客來臺獎勵要點」，鼓勵臺灣各縣市與其他國家無直航點城市進行雙向實質交流，擴大國際能見度。

<p>經華盛頓、桃園及臺北松山以外機場獎勵金額增加1成</p> <p>• 165萬日圓 (約新台幣36.9萬元)</p>	<p>旅客住宿機場旅館(市)一日以上者，每年再增額1成之獎勵</p> <p>• 180萬日圓 (約新台幣39.6萬元)</p> <p>最多20%</p>
--	--

## 7. 基隆市議會訪問と姉妹議会提携提案 (11月24日)

(1) 基隆市は、神戸市と同じく古くから港湾都市として発展し、外国との文化交流が広く行われてきた都市である。今回は、基隆市議会からの交流の申し出に基づき同市を訪問した。

かつて、日本(内地)と台湾を結ぶ内台航路の起終点として神戸港と基隆港が結ばれていた経緯があり、現在は、基隆港と高雄港を管理するTICP(台湾港務公司)と神戸港がMOUを締結し交流を行っている。また、両港を含む航路でクルーズ船が運航されるなど、神戸市とは古くから関係の深い都市である。

人口は約37万人と神戸市より規模こそは小さいもの、1980年当時は世界で15位のコンテナ取扱個数を誇る港湾であった(当時、神戸港4位)。現在は、台湾の国際クルーズ船母港として位置付けられている。

今回の基隆市議会への訪問では、両市の港湾都市としての成り立ちが酷似していることと、日台双方の友好関係促進の観点から近年のコロナ禍克服のために医療物資やワクチンの相互支援が行われたこと、特に神戸市会において台湾のWHOオブザーバー参加のための意見書を決議したことなどから、議会同士の交流を継続的に行っていくためにも姉妹議会提携の締結をしたいと

の申し入れがあった。このため、複数のメディアが訪問の様子を取材するなど現地の関心も非常に高く、ネットには多くの記事が掲載された。

(2) 基隆市議会訪問の後、訪問団は基隆市議会からの提案検討の参考とすべく坊議長と共にウォーターフロントの視察を行った。市街地から道路を挟んですぐウッドデッキが整備された広場があり、そこから港が一望できた。また、日本統治時代に建てられた海港大楼（基隆港務局/基隆税関合同庁舎）があり、素晴らしいウォーターフロントが形成されていると思われた。また、市街地と港との一体感も感じられた。他にも、温泉があることなども含め、神戸市とは多くの共通点があることから、フライ&クルーズを含めたクルーズや街づくりなど、今後の交流につき市会で検討を行うに値する提案であると思われた。



基隆港視察



【基隆市議会訪問】（担当：なんの ゆうこ）

11月24日、神戸市との経済・港湾・観光・教育等における連携強化について意見交換のため、基隆市議会を訪問した。基隆市議会は、各会派室や議場、市会事務局など独立した建物内にあり、集約されている。

神戸港と基隆港は、明治時代に定期航路を開設し、以降、日本と台湾の重要な航路となった。また、基隆市は鉄道やトンネル、水族館、カフェなどが台湾で初めてできた都市で、その建設に多くの日本人が携わったことなどもあり、日本と台湾の関係は親密なものとなる。

そのため、新型コロナウイルス感染症流行時には、日本から台湾にワクチンを、台湾からは日本にマスクを提供し、互いに支援し合った。

また2020年4月、神戸市が医療物資不足に陥った際には、日本台湾後援会から約5,000枚のマスクが神戸市会へ提供されるなど、互いの支援に対し両国ともに感謝の意を表した。

また2021年3月、WHOのオブザーバーとして台湾が参加することに、神戸市議会がいち早く支持を示し、その後、参議院と多数の都道府県も支持を示した。また2021年神戸で開催された第7回日台交流サミットでは、坊議長や上島事務局長をはじめ、議連メンバーのおかげで成功させることができた事に童議長からも感謝の言葉をいただいた。

また、2025年から神戸空港が国際空港化するにあたり、台湾の航空会社からも、就航に対してかなり前向きな意見をいただいた。



神戸市としても、今後もフライアンドクルーズを広げていきたいと考えており、観光やビジネス、教育などに対し互いに良いところを取り入れ発展していくと共に、神戸市会と基隆市議会と友好関係を深めていく事を約束した。

対談後は、童議長の案内で基隆港へ移動。基隆港は、1886年に開港。台湾の北部に位置し、水深が深く内陸に面した天然の港であり、物流の拠点として台湾の主要港の一つでもある。

また台湾第2位の貨物取扱量を誇るとともに、アジア有数の国際クルーズターミナル港でもあり、現在も基隆港周辺は観光化に向けて新ターミナルの建設が進められており、今後も更なる発展が見込まれている。



基隆港にて

立地的には海と山がすぐ側にある。また歴史的な場所や建物、観光名所があり、国際的な貿易や交流の中心地で、物流の拠点として機能している。そのためか西洋文化も多く取り入れられていた。他にも、コンテナヤードや、多くのクルーズ船が入港するなど、神戸港と基隆港の類似点が多いのも特徴的であった。

最後に神戸市会や日台議連が、今日まで基隆市議会と友好的な関係を築いてきたからこそ、現在の神戸市会と基隆市議会は、互いに尊重しあい助け合える関係にある。

今後も経済・港湾・観光・教育等において連携を強化し、両国の発展に向けた取り組みを行っていきけるよう、互いの意識を再確認することができた。

#### 8. 僑務委員会表敬訪問（阮昭雄副委員長ほか、11月24日）



僑務委員会は、台湾国外にいる華僑を所管する行政委員会である。神戸市内にも華僑の方が多く住んでいることもあり、神戸空港の国際化に対する期待と相互往来の促進について意見交換を行った

ほか、台北市をはじめ、新北市、高雄市の議員も加わり意見交換を行った。また、タイガーエア社の陳董事長も意見交換の場に加わり、神戸空港と台湾を結ぶ航空便について意見交換を行った。

【僑務委員会表敬訪問（阮昭雄副委員長等）】（担当：上島寛弘）

僑務委員会 阮昭雄副委員長を表敬訪問。僑務委員会は在外の台湾系華僑の福祉擁護を任としており、その委員長職は大臣に相当し、この度、面談した阮副委員長は副大臣級に相当する。神戸市内には台湾人が多数在住し、古くから神戸市と台湾の関係は深く、昨今は日台交流サミット in 神戸の開催時にも在神台湾人からの参加や、コロナ禍においては多くの在神台湾人から神戸市に対する支援もあり、阮副委員長に対してこれまでの神戸市と在神台湾人との交流の歴史やビジネスにおける連携などについても縷々説明を行った。また、僑務委員会が所管する在外華僑が所持する僑胞カードについて、提示すればサービスを提供するホテルや飲食店が神戸市内にも私の紹介によって存在することをお話し、今後、神戸市と僑務委員会が連携協力の覚書を締結し、例えば神戸市を訪れた在外華僑の方がそれを提示すれば何らかの優待サービスが受けられるなどを提案したところ、阮副委員長からは好評価を頂き、是非取組みを検討したい旨のお答えがあった。これは神戸市にとっても台湾人観光客、台湾系在外華僑の誘致にもつながることを確信するところである。また、在神台湾人にとっては母国である台湾に対し帰国する際の利便性向上は大変重要な点であり、この点を踏まえて、阮副委員長に対しても神戸空港国際化をきっかけに神戸空港から台湾線の就航にご協力を頂きたい旨をお伝えしていたところ、阮副委員長は、タイガーエア社の社長をお連れ頂き、改めて神戸空港への台湾線就航実現についてのお話も出来、タイガーエア社はそれを実現したいとの手応えを感じ、阮副委員長も協力を快諾して頂いた。本件については所感に掲載するが神戸市会において質疑も行っており、引き続き、僑務委員会のルートも踏まえて、日台交流を神戸市においても推進し、神戸市政に資して参りたい。（文責：上島寛弘）

9. 桃園市（横山書法芸術館、桃園メトロ視察）（11月25日）

（桃園市政府観光旅游局 施照輝副局長、文化局 王麗娟副局長、桃園メトロ 鄭柏廷企画処処長が同行）

（1）今年6月に神戸観光局と桃園市観光旅游局との間で観光交流促進に向けたMOUの締結を行い、相互の観光PRの取組等を行ったことを踏まえ、今回は、横山書法芸術館と桃園メトロの視察を行った。

2021年に開館した横山書法芸術館は書道を中心に展示をしており、日本人の建築家の設計によるとのことである。建設に当たっては、日本の美術館、博物館を10か所以上視察して、建築から経営管理まで多くを学んだ由であり、日本の書家の作品の展示も行ったとの説明があった。

同芸術館は桃園メトロの沿線にあり、新たに開発した区域のためか街自体が新しく芸術館に隣接して池が作られており、台湾の伝統をうまく取り入れた作りであった。美術館横の広場では、市民による様々なイベントも行われており、市民に親しまれる空間となっていた。



(2) 次に桃園メトロを視察したが、新たに環状の路線を建設中であり、台北での住宅高騰を逃れてきた市民の通勤手段となる予定であるが、竣工と台北メトロ等との接続までは、バス、バイクによる通勤となる由。

桃園メトロの説明を受けた領航駅から空港まで実際に桃園メトロに乗車しメトロ周辺の開発状況を視察したが、沿線では大規模な開発が行われており、経済発展の勢いを感じることができた。また、神戸観光PR動画が車内のモニターに映されるなど、神戸市との覚書による取組の一端を垣間見ることができた。



桃園メトロにて

【横山書法芸術館 視察】(担当：岩谷しげなり)

横山書法芸術館は、青塘生態公園の隣に位置し近代書法をテーマにした2021年に開館した美術館である。また同芸術館は、「同一機関・複数拠点」の運営でなされており、桃園市立美術館の一つである。芸術館内の中央にある池が墨汁、芸術館自体が硯をイメージして建てられている。訪れた際は、複数の文字を重ねていき、その意味を無くしていく「弱書道」と呼ばれる書法をテーマにした作品が、複数展示されていた。

芸術館内のホールにて、桃園市政府観光旅遊局の施照輝局長より、神戸市と桃園市の連携についての説明を受けた。

2023年6月、神戸観光局と桃園市政府観光旅遊局は、観光交流促進のため覚書を締結した。桃園市は、それに基づき互いの市についての認知度向上、及び、相互送客の仕組みづくりを進めている。桃園メトロと阪神電車とのプロモーションも、その一環である。



【桃園メトロ視察】（担当：岩谷しげなり）

桃園メトロは、桃園国際空港と台北市を結ぶ地下鉄である。2021年阪神電気鉄道株式会社との間で相互連携協定が締結される等、桃園メトロと神戸との繋がりは深い。

本視察では担当者から、桃園メトロのコントロールセンターの機能、及び日本側との観光面での協力についての説明を受けた。それを象徴するのが、同年に実施された「日台友好交流プロモーション」である。阪神電車と桃園メトロ、双方の電車や駅構内に、互いの国の観光地を紹介するポスターの掲示や、車両のラッピング、PR動画の放映等が行われた。本視察においても、桃園空港から台北市に向かうメトロの車内において、神戸の観光地を紹介する動画が放映されていた。

担当者によると、引き続き阪神電車、ひいては神戸との交流を深化させていきたいとのことであった。また桃園メトロとしては、観光面だけでなく5Gを用いた自動走行などの技術面での交流も期待していた。

日本から台湾までの所要時間は、わずか約3時間ほど。台湾の他にも国内旅行の感覚で、行ける国や都市はアジア圏には複数ある。

神戸経済の起爆剤となりうる神戸空港国際化を見据え、官民連携しながら、近隣国（あるいは都市）へアプローチをしていく有効性を、桃園メトロの事例から確認した。



## 第Ⅱ部 台湾訪問議員団所感

### 自由民主党神戸市会議員団団長 平井真千子 所感

台湾と日本、神戸との人の往来が両国にとって大きな経済的インパクトを持つことをお互い再確認する意見交換となった。将来の神戸空港からの就航先として桃園空港のイメージが強かったが、台湾の方々の旺盛な旅行需要に応えるには、台中、高雄への就航も推進すべきである。また、タイガーエアでの意見交換同様、ここでもチャーター便開始を前倒ししてでも神戸空港へ就航したいとのお声をいただいた。三空港での合意があり実現は難しいものの、神戸経済にとっての大きなチャンスを逃さないよう、こうしたニーズを神戸市当局としっかり共有し、台湾当局やエアラインとの交渉が途切れないように努めたい。同時に神戸を訪れる台湾の方は日本へのリピーターが多いことが想定され、多様な観光コンテンツの開発も必要と感じた。

教育旅行での交流も両国にとって経済的なメリットも大きい、特に日本の子供達が世界で最も親日的で、日本の美点を認めてくれる台湾を訪問し現地の方々と交流することは、国際関係の中での日本人としてのアイデンティティの確立に大きく役立つものとする。また、台湾の国共対立と民主化の歴史、自立した政策により東アジアの国際情勢の要となっている現状など日本の若者が学ぶべきことは多く、物見遊山で終わらない教育旅行先としてぜひ推進していきたいところだ。

### 自由民主党神戸市会議員団 しらくに高太郎 所感

成果と今後の取り組み、意見交換の内容。

私は初訪台であったが、以前より台湾の方々が親日的である、人柄が優しいなどと聞いていたが、まさにそれを実感した。今回の訪台の目的の一つであった「神戸空港就航への要望」については、交通部訪問やエアライン幹部との面会も通じて、極めて強い期待感が示されたことは、大変心強いものであり、既に働き掛けてはいるが、神戸市や神戸観光局も共に願っていることなので、ぜひと

も実現に結び付けたいものである。また基隆市議会からは、「ぜひ議会提携を」と積極的な姿勢が、童議長自ら発せられた意義は大変大きいものであると受け留めている。今後、シアトル市議会と連携を締結しているように、アジアで初の議会連携を目指し、台湾との友好の絆を一層深めるべく、例えば修学旅行先に検討してもらうよう要請したり、民間や学生との交流プログラムを推進するなど、具体的な連携を考えたいと思う。

また夜市も台湾の文化の一つであり、食を通じた賑わい創りも大いに参考になるのではないかと感じた。今後、神戸空港の国際化に向け、どう海外の人達を迎え入れ、神戸市民自身も楽しめるかという視点で施策展開も考えなければならない、とも感じた次第である。そのために、桃園国際空港と台北市とのアクセスも視察・乗車したが、やはり空港と市街地そして新幹線とのアクセスは極めて重要であり、このインフラ整備は国や県にも要望し新たな新線を作らなければならない。

#### 自由民主党神戸市議員団 植中雅子 所感

今回の訪台は、神戸空港国際化に向けて、外交部台湾日本関係協会張仁公使・タイガーエア台湾本社許致遠事務長・交通部常務次長（副大臣）との会談にて、神戸空港への就航要請が大きな目的の一つであります。現在、日本から台湾への観光客は、コロナ後は74%が戻ってきたが、それでも日本から韓国を訪れる観光客は台湾より多い。また、台湾から日本へは年間300万人が訪れているが、日本から台湾へは58700人のみとのことであります。

交通部副大臣は、「是非、神戸～桃園航路の実現で観光客増やマーケット拡大で、両国がウインウインの関係でありたい」と述べられ、大変嬉しい思いをいたしました。

タイガーエア本社でも、去る10月25日に神戸市を訪れ、港湾局とも交渉をされたと同い、積極的に就航に向けて取り組んでおられる姿勢に感激いたしました。すでに、花巻・高松・高知・福岡・佐賀に就航されていますが、神戸空港は国際化の条件が揃い、魅力的な空港であるとの評価を嬉しく受け止めました。2025年のチャーター便を待つまでもなく、修学旅行や企業視察等の条件付きで、テスト飛行をさせていただきたいとの申し出もありましたが、神戸のみで前に進めることのできない理由を坊議長が説明をされましたが、ご理解いただけたかは微妙です。桃園空港のみならず、台中や高雄、華蓮の空港にも夢が膨らみます。是非とも、第1便は台湾を！と、強く望みます。また、桃園空港から台北へ向かう桃園メトロの車内では、わが自民党会派の上島議員が2年前から台湾観光局に働きかけ、神戸観光局・阪神電車・桃園メトロのコラボによる神戸観光PR動画が液晶ディスプレイで見ることができ、大感動でありました。桃園メトロの車体は川崎車輛、システムは新明和工業にも感動です。

新竹県との交流も年々深まり、いつもながらの温かいおもてなしに心より感謝であります。

国際線就航後には、直接神戸に来ていただき、有馬温泉に宿泊しつつ、ゴルフや港めぐりやサイクリング、登山等々で、神戸を楽しんでいただきたいものです。

初めて訪れた基隆市では、正・副議長にお迎えいただき、立派な議会棟を見せていただき、美味しい果物に舌鼓を打ちました。議場正面には孫文さんの写真が掲げられており、皆さんをしっかりと見守られておられるのだと感じました。36万人が住む港町基隆市との友好都市提携もありではないでしょうか？一つ気になったのは、基隆市内に老朽化した建物が多いいことです。外壁の塗り替えもなく、メンテナンスが全くできていないように見受けられました。耐震問題はないのだろうか？地震対応はどうか？台北でも、老朽化ビルが多いと感じましたが、日本ほど厳しい規制がないのでしょうか。

最終日には、午後10時を過ぎて夜市を視察し、その賑わいを体験しました。夜市は、常設でなくては賑わいに繋がらないと思いました。試験的に元町商店街で少しずつでも開店時間を延ばし、キッチンカーを導入してはどうでしょうか？積極的に推進すべきであります。

坊議長を始め、同行の議連の皆様のお陰様で有意義な視察ができました。

ありがとうございました。

#### 自由民主党神戸市会議員団 上島寛弘 所感

コロナ禍が発生以来、久方ぶりの訪台となった。前期においてはコロナ禍によって中々訪台は困難ではあったが、我々議会がリードしながら台湾との親交を深め、神戸市と台湾の連携強化によって神戸市政に貢献してきたところである。例えば、神戸市会において台湾の世界保健機関の加盟や世界保健機関西太平洋委員会への参加に関する2本の意見書や、史上最大規模となった日台交流サミット in 神戸が成功裏となったこと、これらに対して中国政府や中国総領事館から陰湿かつ悪質な妨害や脅迫もある中でそれにも屈せず力強く台湾との関係強化に取り組んできたことについては台湾政府のみならず官民とわず台湾の皆様から神戸市会・神戸市の取組みに対して高い評価を頂いていることをこの度の訪台で面談した方々とのコミュニケーションでも感じる事が出来、それ故に台湾サイドとしても神戸市を信頼できるパートナーとして連携強化を希望されていることを確信した。とりわけこの度のミッションの中でも我々神戸市会議員にとって最重要である神戸空港における台湾線の就航実現についてであるが、タイガーエア社の訪問や、上述した通り、阮副委員長によるサポートを得て、タイガーエア社社長とのコミュニケーションをとることによって、タイガーエア社に対して神戸空港と台湾間のフライト実現について要請できたこと、またタイガーエア社も神戸空港を大変評価しており、2025年を前倒しで2024年にテストフライトでも神戸空港に飛ばしたいという意向があったことは大変貴重な意見であり、早速、後述の通り、議会において質問を行ったところである。台湾は日本にとっても信頼できるパートナーであり、極東アジアで唯一の親日国家であり、自由と民主主義の価値観を共有できる国であるといっても過言ではない。更に、神戸市会議長と共に基隆市を訪問し、基隆市議会正副議長を表敬したことによって、基隆市議会が神戸市会との友好議会協定締結の意向をもっていることが明らかとなり、コロナ禍によって神戸港と基隆港の客船クルーズを復活させる機運醸成、観光連携にもつながることを確信した。また、基隆市議会議長は次期総統（現副総統）である頼清徳閣下との親族であることも今回、面談し

た潘孟安閣下からもお伺いし、神戸市会と基隆市議会の友好議会協定の締結は、決して一地方の市議会同士の連携だけではなく、一層の両国の連携強化にもつながることとなると確信する。潘閣下との関係構築によって頼政権に移行しても神戸市と台湾との友好発展、連携強化を持続できることとなった。今後、帰国後も引き続きの神戸市から日台両国の連携に取り組み、神戸市の福祉向上に資したい。

以下、今回の視察を活かして、私上島寛弘が本会議、委員会において質問を実施したことから参考に掲載する。

令和5年12月7日神戸市会本会議 議事録より抜粋

○議長（坊 やすなが君） 次に、25番上島寛弘君。

（25番上島寛弘君登壇）（拍手）

○25番（上島寛弘君） それでは、吉田議員に続きまして、私、上島寛弘が一般質問をさせていただきますのでどうぞよろしくお願いたします。

まず、神戸空港のことについてでございます。

神戸空港が2025年国際化することが決定してございます。そして神戸空港国際化ということでございますから、当然ながら、国際線が就航しなくてはなりません。

そんな中で台湾との今回、国際線の就航について私のほうから提案させていただきたいと思うんですけども、本年6月に神戸観光局と台湾・桃園市政府観光旅遊局が観光交流促進に向けた覚書を締結いたしました。

将来的な相互の観光需要を高める取組の進展に大変期待しているところでございます。

そして2025年の国際チャーター便の運用開始に向け、就航便のまさに誘致が急務となる中、これまで観光・経済・国際連携を進めてきた台湾については国際線の就航が必須であるというふうに考えてございます。

先々週、11月22日から11月25日と議長を筆頭に台湾を私ども日台議連で訪問をさせていただきました。

そして、その日程の中で台湾の交通部、これは日本の国交省に当たるところでございますけれども、交通部、そして台湾の航空会社でございますタイガーエア台湾を訪れることがございました。

その際に交通部の副大臣ともお話をさせていただきましたけれども、大変この神戸について評価をしてくださっておりましたし、またタイガーエア台湾の役員、また社長ともお会いしましたけれども、その方々もこの神戸空港をすごく評価してくださっておりました。

なかなか関西国際空港の大きさとかを見ておりますと、神戸空港、小さいから本当に国際化大丈夫だろうかということで、今補正予算等、いろいろ急務となって取り組んでいるところでありますけれども、やはり台湾の交通部や航空会社が評価してくださっていたのは、これだけアクセスが便利な空港はないというふうにおっしゃっていました。

とにかく新幹線と空港の距離が近いと。これだけ近いのはやはりなかなかない、関空と新大阪に関しましても、JRで52分、ラピートに乗ったら59分という感じでございますし、それこそ神戸空港から新大阪でも59分で行けますから、あんまり変わらないんですね。

じゃあ神戸空港と新神戸となりますと、もっと近いわけでございます。

これだけの魅力のあるやはり神戸空港にもうぜひともタイガーエア台湾の社長、商務長はぜひ飛ばしたいというふうに前向きな姿勢でございました。

この点につきまして、ぜひこの前向きな姿勢というものを本当にありがたく思うところでありますし、一方で台湾の会社やほかの社にも何社か聞きましたけれども、いや関空があるから、この距離の近さで神戸空港にわざわざまた新しい便を飛ばすのはというふうにおっしゃる方もいらっしゃいました。

そんな中で、今のこの時点でやはり前向きにやりたいというふうに言ってくださっている、そういう航空会社はやはり評価していただき、ぜひともこの台湾のインバウンド、今も大変神戸には台湾の皆様訪れてくださっておりますけれども、ぜひ神戸市として実現に向けた取組をより積極的に進めていただきたいと思います、いかがでしょうか。

～略～

○議長（坊 やすなが君） 今西副市長。

○副市長（今西正男君） 私のほうから残りの3点につきまして御答弁申し上げます。

まず1点目は、神戸空港と台湾の国際線就航についてでございます。

先月、坊議長をはじめとする日台議連の議員の皆さん方が台湾を訪問されまして、神戸と台湾との観光交流や神戸空港の国際化などにつきまして、神戸のプロモーションや意見交換を行っていただきましたことは意義深いことだというふうに思っているところでございます。

神戸の観光や経済にとりましても台湾との連携は重要でございまして、これまでも神戸観光局による観光交流の推進や港湾における連携、クルーズの振興など積極的な取組を進めまして、友好関係を構築してきたところでございます。

また、台湾からの訪日客数はコロナ前では2019年には490万人という、非常に過去最高の数字に伸びたという状況でございますので、また台湾人観光客の約9割の方が訪日回数2回以上のリピーターでありまして、大きなマーケットの1つであるというふうに認識をしているところでございます。

今回の議連の訪問時に台湾の交通部やエアラインにおきまして、神戸空港が高く評価され、神戸空港への就航に前向きな姿勢を示しているというふうなことをお聞きをいたしましたので、国際チャーター便の誘致に向けまして、非常に力強い後押しになるというふうに感じているところでございます。

今後、インバウンドで人気のあります酒蔵や有馬温泉など、観光コンテンツをこれまで以上に充実させ、台湾をはじめとする観光交流人口の拡大を図っていきたいというふうに考えているところでございます。

今後とも神戸観光のコンテンツの強みを最大限生かして、神戸商工会議所をはじめとする経済界、そして兵庫県、神戸観光局などとも連携をいたしまして、台湾をはじめとする各国の航空会社や旅行会社へのプロモーションを積極的に進め、国際チャーター便の就航を実現してまいりたいというふうに考えているところでございます。

～略～

○議長（坊 やすなが君） 上島君。

○25番（上島寛弘君） ありがとうございます。

では再質問させていただきます。

まず、神戸空港と台湾の国際線就航について、前向きな御答弁をありがとうございます。

国際線就航の増加に向けては、当然ながら私は台湾線就航していただきたいので、台湾の航空会社とのアプローチ・接触をさせていただいてございますけれども、あとは国内航空会社にも当然ながらアプローチしなくてはなりませんから、神戸空港から国際線の就航をしてもらおうということを、国内の航空会社や旅行会社に対してもニーズ調査を行っていただいて、積極的に働きかけていただきたいというふうに思いますが、この辺りの見解をお伺いしたいと思います。

（「議長」の声あり）

○議長（坊 やすなが君） 今西副市長。

○副市長（今西正男君） 今御指摘をいただきましたように、神戸空港の国際線就航に向けましては、海外の航空会社のみならず、やはり国内の航空会社にも、神戸空港から就航していただきたいというふうに考えているところでございます。

国際線就航の実現に向けましては、そのマーケットニーズが大変重要になってくるというふうに思っております。航空会社はもとより、旅行会社など様々な関係者との意見交換を進めまして、情報収集を行っているところでございます。

具体的には、この、例えばANAや、過去に国際線を就航しておりましたスカイマークなどとも既に意見交換をさせていただいているという状況でございます。

この国際線の就航に向けまして、引き続き国内の航空会社、あるいは旅行会社とも意見交換を進めますとともに、マーケットニーズを的確に把握をしながら、積極的に取組を進めてまいりたいと考えてございます。

（「議長」の声あり）

○議長（坊 やすなが君） 上島君。

○25番（上島寛弘君） ぜひお願いいたします。

スカイマークさんとかも、今飛ばしていらっしゃいませんけれども、今後もしかしたらできるかもしれませんし、スカイマークさんはそらとぶピカチュウプロジェクトみたいなこともされていって、そのそらとぶピカチュウプロジェクトと同じような感じで、連携を組んでいます。桃園市、桃園空港に着いて桃園メトロで台北に行くときに、電車の中でBE KOBEのこととか、神戸のプロモーションも流れる中で、横を見たらポケモンの看板があるんですよ。



これは何かと云ったら、同じくそういったポケモンプロジェクトに、台湾の桃園メトロも参画していると。台湾の入り口と云ったら、大きな入り口はその桃園国際空港のある桃園市であるんですけども、そういった中でスカイマークとも親和性もありそうですし、いろいろ可能性はあると思います。

また、タイガーエアさんも前倒してやりたいというふうに、これはコンセンサスがあつてのことですから、なかなか2025年の前倒しというのは難しいのは、これ分かっておりますけれども、ただ今できる制度として、OWNユース・チャーターというものがございまして、これはもう、もともと今も神戸空港はOWNユース・チャーターでというのは実績もございまして、例えばじゃあOWNユース・チャーターというやり方であってもできるのであるならばいかがですかとか、テストフライトしたいというぐらい前向きでありましたから、そういった情報提供というものは御協力していただきたいと思いますので、この点、ぜひともよろしく願いいたします。

令和5年12月1日 神戸市会経済港湾委員会 議事録より抜粋

○副委員長（上島寛弘） 分かりました。ありがとうございます。

次の質問させていただきます。神戸空港の国際化ということで、2025に向けてこれは進めていかななくてはならないということで、今回補正も上がっているところでありますけれども、実は、神戸空港の国際化に当たっては、当然国際化するわけですから、日本と神戸と外国とが関係が結ばれていって、そうやって行けるようになるということで、大変市民にとっても経済にとっても大変よいことだと思っておりますし、そこで、私といたしましては、台湾との国際線就航をぜひ実現していただきたいということで、実は先週、こちらにいらっしゃる植中委員も黒田委員も御一緒に、議長を団長として、うちの自民党と維新の議員さんと、日台友好議連に加入している議員とで訪台をしまして、実際にタイガーエアの・・・また、タイガーエアの社長ともお話をさせていただいて、お会いすることがございました。ぜひとも、当然ながら様々なコンセンサスとか取っていく中での2025年の決定ということでございまして、タイガーエアさんにそういった台湾と神戸を結んでくださる御意向があるならば、ぜひとも実現してもらいたいなというところの思いもあるところであつて、様々な意見交換もさせていただいたところであります。

そういった中で、観光や経済の国際連携をこれまでも台湾とは進めてまいりまして、港同士でも結んでおります、海の。この空の港ともやっぱり関係を結んでいただきたいと思いますし、観光連携に関しても大変MOUも締結して結ばれているところでありますけれども、台湾の国交省に当たる交通部は、常務次長、副大臣と面会、面談をしたんですけども、神戸空港に関しては高く評価もしてございまして、タイガーエア台湾も大変これは高く評価をしていて、神戸空港への就航について大変前向きな姿勢があつたと。その中でもお話があつたのが、やっぱりこれだけ新幹線と空港が近いというのはめちゃくちゃ魅力やと。でもそれを日本人も知らないかもしれないけど台湾人の人も、外国の人たちも知らないから、もっとこれはPRするほうがいいんじ

やないかみたいなの、そういったお話もいろいろな懇談の中でもあったんですね。本当にこんなに近いのってすごいと。名古屋のセントレアもそうですし、名古屋駅も遠いですし、新大阪と関空もそうですし、東京だってそうですよね。これだけ近いのはすごく魅力的だというような話を何度もいろんな方からお伺いしまして、これに関してタイガーエアさんは、ぜひとも神戸空港へ就航したいという前向きな御姿勢であったわけでございまして、神戸市としても実現に向けた取組をより積極的にこれは進めていただきたいですし、当然ながらタイガーエアさん以外にも、ほかにもいろいろな社もございまして、ぜひこの台湾線の国際線を実現するということをしていただきたいと思うんですけども、この辺りいかがでございましてでしょうか。

○長谷川港湾局長 今、委員からは非常に力強いお言葉をいただいたと考えてございます。やはり、私どももいろいろなエアライン含めてお話ししますが、やはり神戸空港が都心に近いということ、これは非常にメリットが大きいというふうにお聞きしてございますし、新幹線とも近いということで、いろいろな各都市と非常に緊密に連携ができるという意味でも、非常に神戸はすばらしいところだということでもお聞きしてございます。

そういった強みを生かしながら、我々もいたしましても、何とか様々な国からチャーター便を誘致したいと思っておりますので、委員各位におかれましては今後ともこのチャーター便の誘致に御尽力賜りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

○副委員長（上島寛弘） この点では、観光の促進という観点、また、物流の観点、ビジネスの観点からも台湾とはかねてから港湾局のほうも交流はしていただいておりますし、経済観光局をはじめ様々交流していただいておりますので、ここはぜひとも実現していただきたいということと、これはあくまで向こうサイドのお話でございましてけれども、テストフライトでもできるというのであればさせていただきたいというような、それぐらいに前向きに評価をしていただいております。

中に、制度としてね、チャーター便というのは、これ 2025 年でございまして、もともと国際線であったとしてもオウンユースチャーター自体は認められているところであると思っております。だから、様々課題ある中で、じゃあオウンユースチャーターする条件というのは当然ながらあるわけですよね。だからそういった条件とかも、もう既に港湾局のほうもタイガーエアさんとはもう接点はできているというところであるとは思いますが、その点も含めて、このオウンユースチャーターではこういう方法があるとか、そういったところの、実際こんなものやというようなことも親切に、丁寧に教えていただきたいと思いますし、やはりそういうふうに最初からやっぱり神戸空港でというふうに言っている方と、じゃあそこまで言うんやったら神戸空港飛ばしたろかというんやったら、そこはやっぱりいろいろとその思いというのを酌んでいただきたいと思いますし、我々議員もそうやって訪台したということも踏まえて、またコミュニケーションも取ってまいりましたので、この点について、今言ったところの助言やアドバイス、必要なこと等もあれば、サポートもしていただきたいと思いますし、その辺りはいかがでしょうか。

○長谷川港湾局長 委員から御指摘いただいた点でございますが、何とか私どももこういった点、実現してまいりたいと思います。一生懸命尽力していきたいと思います。

詳細の、例えば、先ほどの条件につきましては、ちょっと担当局長のほうから御答弁差し上げます。

○河原港湾局担当局長 国際チャーターの要件につきましては、副委員長からも御指摘ございましたけどる条件でございます。またこれにつきましては、国土交通省のほうで通達として決めておられるものでもございますけれども、この辺りにつきましては、今お話のございましたエアラインさんに我々のほうからもお示しをさせていただきまして、どのようなことができるのかということについてはしっかりと議論させていただきたいと、そのように感じております。

○副委員長（上島寛弘） ぜひお願いします。もうやっぱりこういうのはスピードが大事でございますので、先週行って、この場で取り上げて、やっぱりそうやって港湾局としてもこういうふうなものですよというふうにしちんと情報提供というものはさせていただきたいと思いますので、ぜひとも、連絡先はもう言わなくても知ってらっしゃると思いますので、この辺りぜひともよろしくをお願いします。以上でございます。

～中略～

○副委員長（上島寛弘） ありがとうございます。ぜひお願いいたします。

先週、台湾訪台いたしまして、僑務委員会というところにもまいりました。僑務委員会というのは、在外の台湾人の方々の権利向上を使命とされる台湾の政府機関でありまして、その僑務委員会の副大臣とお会いしまして、こちらにいらっしゃる植中委員や黒田委員も御一緒していただいたんですけども、その訪台において、僑務委員会の副大臣とも話しまして、在外の華僑、在外の台湾人の方々も多いところで、その方々が持っていらっしゃる僑胞カードというのがあるんですね。これを持っていると何がいいかというと、簡単に言いますとJAFのカードみたいに、それぞれの行った先でクーポンであったり割引きであったりドリンクのサービスもあったりというふうなところをいろいろしてくださるんです。これを持って結構使えるまちっていうのは、1つ訪れるまちの選択肢としても選ばれるという感じで、こういったところで僑務委員会、在外台湾人の方々たくさんいらっしゃいますし、そういった方々が日本を訪れる、神戸を訪れる際に何か協力と連携とかできたらもっと神戸市にも台湾人の誘客もできるんじゃないかということで、副大臣ともお話しして、そういったとこで連携できませんかねという中で僑胞カード、これに関して、神戸市で入っている店舗調べました。そしたら3店舗だけなんですね。1店舗は・・・さんといって、私が紹介して登録をお願いしたところであるんですけども、そういった僑胞カードの活用とかも含めて、こういったOCAC—僑務委員会との連携をすることによって、在外台湾人の誘客等にもつながっていくということを鑑みますと、申請の手続がちょっとややこしいというところもあって、外国政府のそういった機関に登録しているいろいろやり取りするので、そこで何らかの神戸市と出先機関である台北駐大阪経済文化弁事処、総領事館との連携等、やり取りもしていただけたらもっと加入店も増えて、台湾人の誘客にもつながるのではないかと思うんですけど、

この辺りについていかがでしょうか。

○大畑経済観光局長 御答弁申し上げます。

恥ずかしながらこの僑胞カードの件につきまして、私も副委員長のほうから御指摘をいただくまで詳しく存じ上げておりませんでした。そういったカードをお持ちの方がそれぞれの店舗、登録店舗で引きという、そういったインセンティブがあれば誘客できるのではないかと、そういう御提案だというふうに思っております。市内で——日本で登録されているのが113店舗で神戸が3店舗という状況でございますので、こういったことが、今既に3店舗加盟されていらっしゃるみたいですが、そういったところにもちょっと状況もお伺いをしながら、そういった、どのような制度で、どのような申請手続をしていくのかというのを我々も勉強して進めていきたい、そういうふうに思っております。

○副委員長（上島寛弘） ありがとうございます。ぜひお願いいたします。

また台湾関連で恐縮でございますけども、スカイマークさん、今神戸空港も飛んでおりまして、そらとぶピカチュウプロジェクトとあって、ピカチュウ、ポケモンの絵の描いた飛行機飛んでますよね。そのそらとぶピカチュウプロジェクトの一環で、神戸観光局と桃園政府の観光旅遊局ですかね、そこのMOUも結んでいる中で、桃園メトロさんがポケモンとコラボレーションして限定のコレクターだったら結構喜ぶであろう限定のポケモンを踏ませた乗車券みたいなのも作って、我々もお土産でそういったものがありますよということでもいただいたんですけども、こういったところで今後のスカイマークさんが海外、台湾とのつながりも深めていくのかなというところもすごい期待できる場所なんですけど、一定のコンテンツ力というのは、日本のアニメ、漫画、ゲームというのはすごいものであって、ポケモンというふうに私は言うておりますけど、ポケモンのこれはやはり欧州に関しても人気がありますし、今までやったら子供たちのものだったのがポケモンGOの存在でおじちゃん、おばちゃんも年齢もかなり幅広く、愛されるコンテンツにもなっているとこなんですけど、こういったところとのコレクション制というものも踏まえて、そういった桃園メトロの取組とか販売状況とか、結構売れているような感じでございましたけども、状況も神戸観光局として聞いていただいて、何かせつかくスカイマークさんがやっているそらとぶピカチュウプロジェクトにも何か参画できるのかということも確認していただいて、そういったさらに何でも活用してやっていただきたいなと思うんですけども、このポケモンとかそういったコンテンツ力に強い、そういった漫画、アニメ等のキャラクターを使った誘客にも取り組んでいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○大畑経済観光局長 御答弁申し上げます。

今回、お話いただいておりますのはポケモン株式会社がそらとぶピカチュウプロジェクトというのを展開される中で、世界中で航空機にまずそのラッピングしたものを飛ばす。その中でスカイマークもそれに参画をしているというふうに承知をしておりますし、今回は、桃園メトロさんも、桃園国際航空と非常に関わりが深いということで、このプロジェクトに御参画をされて、今ラッピングの電車であったり、先ほど副委員長から御紹介があった記念のチケットというのも

発行されて、展開されているというふうにお聞きをしております。

残念ながらこれまでポケモンほどの世界的に有名なコンテンツとのコラボというのは、実際にはできてございません。そういった意味では、今回、この桃園メトロさん、桃園市とのMOUによって関係ができておりますので、そういったことでどのような方法で、またどのような効果が生まれていくのか、こういった戦略に関しましては、我々としてはいろいろ情報を提供いただきながら勉強させていただきたいというふうに思っております。

○副委員長（上島寛弘） 桃園メトロの社内、我々も桃園から台北に移動するとき車内でそのポケモンのそういったポスターも貼ってありましたし、一方で電光掲示板のほうでは神戸市のプロモーションも流れていて、なかなか何か海外におけるのに神戸におけるといふ、日本におけるといふような感覚もありまして、大変プロモーション効果あると思います。ぜひともそこは取り組んでいただきたいと思います。

令和6年2月19日 神戸市会経済港湾委員会 議事録より抜粋

○副委員長（上島寛弘） よろしく申し上げます。

前回の経済港湾委員会でも台湾の就航についてお話しさせていただきました。我々議会側でも台湾のタイガーエアや交通部ともお願いのために接触もさせていただいたところがございますけども、あの際にもお願いさせていただきましたけども、タイガーエアのほうは前向きに我々の会談の中でも、ぜひ神戸空港と台湾を結びたいというふうなお話もございまして、ここにいらっしゃる植中委員や黒田委員も御一緒に台湾にも行っていただいたんですけども、その際に前倒しとか、そんなテストフライトもできたらといいますけど、それはちょっといろいろな3空港の経緯もあってということもお話しさせていただいたんですけども、一方で今はオウンユースチャーター自体の制度はあったりして、当然ながら方法等には制限があるんですけども、そのあたりの周知やタイガーエアの御意向を踏まえた上で、神戸空港をそうやってまさに率先して希望してくださっているならば、そういったところに沿った対応もさせていただいて台湾線の就航をしていただきたいということをお話はずっとさせていただいておりますけども、この点について、タイガーエアとの既に何らかの——話せないところもあるかとは思いますが、対応や接触、我々のそういった話も聞いていただいて動いてくださっているのか、オウンユースチャーターの在り方等の情報提供等もしてくださっているのか、この点についてお答えできる範囲で結構ですので、御答弁ください。

○河原港湾局担当局長 12月だったと思います。経済港湾委員会のほうで副委員長のほうから御指摘をいただいております。その後、我々のほうからもタイガーエアの日本総代理店ですね、そちらのほうにも御連絡をさせていただきまして、先ほどお話のございました3空港懇談会の状況でありましたり、チャーター便をどういうふうにすれば運航できるかということについて資料等御説明をさせていただいております。

先方のほうでいろいろと御検討されておりますので、その内容につきましては先方の中身につ

きますので、そちらについてはちょっと御答弁は御遠慮させていただきたいんですけども、こういった形でしたらできますよというようなことにつきましては、我々のほうからも御説明をさせていただいておりまして、先方のほうで今現在検討をさせていただいているとそういう状況でございます。

○副委員長（上島寛弘） 大変神戸空港に対して高い評価をしてくださっています——台湾の各社また台湾政府も。ですから、ぜひともこの台湾線の就航というのをさせていただきたいですし、先ほど万博の否定的な話もございましたし、それによる需要というものがいかなものかというような御心配もありましたけども、まさに台湾からの観光旅行、ビジネス含めて入国をされたい台湾人観光客、旅客は増えている状況でございます。

そういったところも踏まえまして、まさに台湾でも旧正月の暦が採用されておりまして、8日から台湾でも長期休暇に入られて多くの台湾人の方々が訪日されていらっしゃる。入国審査においても、地方空港と台湾結んでいるケースも割とございますので、プレクリアランスという事前審査というものをまさに台北の近郊にあります桃園国際空港で事前に日本の入国審査を台湾においてしてしまって、それによって日本到着後の審査は長い——すごい関空でさえも待ち時間が強いられるような状況ですけども、そういったことにもならないように余裕のある搭乗前に実施して、少しでも日本の滞在を最大限楽しんでいただくというような方法をもう台湾においても日本の入国審査ということを事前にするというようなこういった画期的なことも行っておりまして、函館や仙台、高松等々地方 10 空港でそういったことをしてくださっているということなので、こういった方法も踏まえれば、いろいろな形でそういった既にもう事例も日本においてもできたわけでございますから、そんなことも神戸空港の国際化に向けてできるんじゃないかなというようなこともあると思いますので、この点についてもぜひ勉強させていただいて実現に向けて少しでもそういった誘客ができるような方法というのを考えていただきたいと思いますと思っておりますけど、この点いかがでしょうか。

○長谷川港務局長 今の桃園の空港におけます入国審査の在り方というのは非常にすばらしい制度だと思っております。やはりビジネスであったり旅客であったりが入国する際に手間がかかるというのは、時間がかかるというのは非常に利便性にも影響を与えるものでございますので、やはりこういうものが神戸でどういう形でできるかというのは今すぐにはありませんけれども、やはりしっかり勉強しながら研究させていただきたいと存じます。

○副委員長（上島寛弘） ありがとうございます。

その点ぜひともお願いしたいですし、桃園国際空港のございます桃園市観光局と神戸観光局も MOU を締結しまして、互いに相互の観光交流というものを促進していこうということで、桃園メトロでは神戸の映像も流れて、私も先月も台湾行きましたけども、そういったことも流れてございまして、神戸についての認知度も高まっております。この点は本当に進めていただきたいと思いますというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

#### 日本維新の会神戸市会議員団 外海開三 所感

今回5年ぶりの訪台でもあり、改めて台湾の活力を感じた。JNTO（日本政府観光局）発表の2023年10月訪日外客数推計値によると、10月の訪日外客数は、2019年同月比100.8%の2,516,500人となり、新型コロナウイルス感染症拡大後初めて2019年同月比を超え、台湾からも424,800人もの方々に訪日いただき感謝を申し上げたい。訪日台湾人訪問回数は、全観光客数のうち4回目以上と回答した割合が約8割とのデータもある。また、リピート率が非常に高い傾向にあり、平均滞在日数は5.5日とある。今後、インバウンド誘客の都市間競争はより一層熾烈になることが予見される中、神戸市への誘客を図るのは今まで以上に神戸観光の取り組みを強化する必要がある、特別感のある観光プログラムをつくり、海外船社や旅行会社のキーパーソンに来神してもらい、神戸にしかない独自の特別な体験をしてもらい、所謂「FAMトリップ」をさらに強化し、神戸観光ツアーの実現につなげていく事が肝要であると考えます。

今後も、日台友好及び相互交流の促進に資する活動を続け、日台関係が更に強固となるよう取り組んで参りたい。

#### 日本維新の会神戸市会議員団 住本かずのり 所感

今回、日台友好神戸市会議員連盟の一員として台湾を訪問した。各政府関係者、地方自治体議員、民間企業などを訪問して、来る神戸空港国際化に伴う台湾からの神戸空港直通航空便乗り入れ、神戸観光、産業連携の可能性などの依頼、意見交換を行なった。

感想としては、各機関共積極的に神戸市との連携を望んでおり、日本との繋がりを強化したい旨が伺えた。

例えば、LCC航空会社タイガーエア社に訪問した時は、担当者から2025年の国際チャーター便を待たずに、来年でも臨時便で神戸空港に乗り入れできないのか、我々はすぐにでも運行できる準備がある、誰が決定権者なのか、修学旅行便なら可能である、などの提案があった。現在、タイガーエア社は閑空には乗り入れてはいるが、運行時間帯があまり良くないため（昼間、夕刻の時間帯）に、神戸空港に先行乗り入れすることで実績を作りより良い時間帯の運行枠を確保したい思惑もあるのだろう。

基隆市議会に訪問した時も、市議会議長と会談の際は「いつでも神戸市と友好都市提携を結ぶ準備がある。今この場で結んでも良い。」など驚くような発言もあり、坊議長が返事に困る場面もあった。神戸港と台湾基隆港は昔から航路で繋がっており、非常に繋がりの強い街でもあるので、台湾国内の港湾競争という事情からも出た発言ではないだろうか。

台湾国内の事情は外交部 張公使によると、出生率が1を切っており、少子高齢化でありその上、昨今の国際状況の影響で、物価が高騰しているにも関わらず給与が上がっておらず、若者が結婚できないという日本と同じ課題を抱えている。そういった事情もあり、積極的に外需を求めている様子が伺い取れた。また、台湾の空の窓口である桃園国際空港も2030年に第3ターミナルが完成予定であり、これまで以上の外国人を受け入れる体制づくりを着々と準備している。

産業の方では、新竹県に訪問したのだが半導体最大手の TSMC 本社があるという事で、資料によると失業率が国内最も低く、世帯あたりの可処分所得も 3 位、人口増加率も 2 位などと軒並み高い数値を示しているなど経済的に豊かであり、教育環境、高齢者福祉施策など充実している様である。TSMC も熊本県が誘致して新工場を建設中である。偶然に隣に座った事で新竹県の李安好文化局長と文化振興について意見交換したのだが、新竹県は国内で客家（はっか）比率が最も高い県ということもあり、客家語の普及に取り組んでいるとのことであった（新竹は国民党が強い地域なのだが、客家との関係性が良くわからなかったのだが）。そういった直接現地の文化振興施策が聞けたことは大変貴重な機会になった。

台湾では来年 1 月に総統選挙を控えており、民進党が継続して政権を握るかが大きなポイントとなっており、引き続き台湾独立路線をいくのか、大陸と近い政府になるのかで国内の情勢も大きく変化するのだろう。コロナ後の台湾は観光客も戻り経済も活気が見られるが、政府や民間は次を見据えての国内外の投資を積極的に進めており、そのためには一番近い国、日本・神戸市との関係強化を求めているように感じた。神戸市も神戸空港国際化を見据えて、台湾との連携強化を通じて、文化、産業、観光、教育面等でウィンウィンの関係作りを早急に進めていくべきであると考え。

#### 日本維新の会神戸市議員団 黒田武志 所感

タイガーエアの意欲的かつ積極的なアプローチに感銘を受け、神戸空港が抱える期待感と、市場の潜在的需要の高さを実感した。2025 年、国際チャーター便の就航をはじめとして、県内の高等学校の修学旅行で神戸空港を活用し、異文化体験や国際交流の機会を増やすため、台湾を訪れる機会を創出できればよいのではないかと。関西 3 空港懇談会や関西エアポートなど関連機関との協議が必要であるが、これを実現するためには、関連する支援制度を促進する必要があると考える。神戸空港の国際化に向け、今後、様々な国の都市との就航が検討されるが、その中で桃園空港など台湾からの定期便は不可欠であり、実現に向け議会で取り組んでまいりたい。



交通部（日本の旧運輸省、旧郵政省に相当）常務次長（副大臣）と会談 11 月 24 日  
タイガーエアに続き、交通部においても神戸空港国際化に期待が寄せられていると感じた。





台北市 民進党 潘孟安（前屏東県知事）表敬訪問 11月23日



台北市 外交部 台湾日本関係協会で会談 11月23日



新竹県 新竹県政府 知事と会談・意見交換会 11月23日



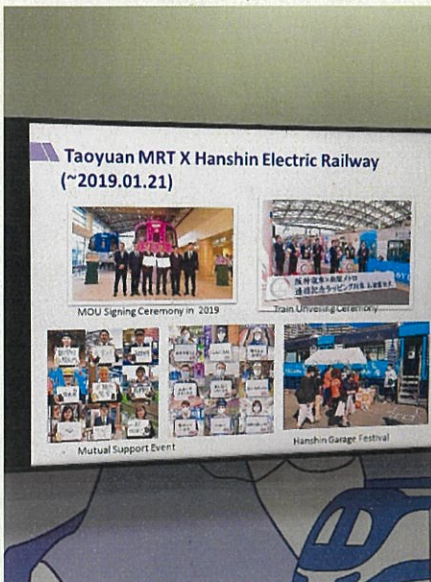
基隆市 基隆市議会議長と会談 11月24日



僑務委員会 副大臣と会談・意見交換会 11月24日



桃園市 横山書法芸術館 視察・意見交換会 11月25日



桃園市 桃園メトロ（桃園大眾捷運股份有限公司） 11月25日

一部、無人運転が始まっており、安全性・費用対効果を検証しながら、全線での運用を目指しているとのこと。車両は川崎重工製、システムはドイツ・シーメンス製。全旅客車両の照明がLED式に換装されている。防犯カメラの監視ネットワークの運用を含め、神戸市営地下鉄より、進んでいる点も多く見られた。

台湾の議員とも、双方の国や行政における課題や先進的な事例について率直な意見交換を行い、お互いの理解を深め、親密な関係を築くことができた。ちなみに人口400万人を誇る新北市の議員数は66人（神戸市は65人）で、その内、女性は約半数を占めるとのこと。また各組織の女性幹部の割合は日本と比べかなり高いようで社会全体として女性の社会進出が進んでいると感じた。

日本においても、女性の社会進出を促進し、男女平等な社会を目指す動きが進んでいるが、まだまだ改善の余地がある。女性がリーダーのポジションに就く機会を増やし、職場全体で多様性を尊重する風土を醸成することが重要である。

他の訪問先での会談と意見交換を通して、東アジアの同じ民主主義の仲間として、政治・経済の

両面で日台友好を一層深めていく必要性を再認識した。日台双方が利益を享受しながら、神戸経済の成長・発展に寄与できるよう議会で取り組んでいく所存である。

#### 日本維新の会神戸市会議員団 岩谷しげなり 所感

現在、東アジア情勢は極めて不安定な様相を呈している。大国に挟まれた中小国の厳しい道程は、これまでの歴史の証明する所である。だからこそ、境遇が似通う日本・台湾両国は、協力を深化し続ける必要があり、それは東アジアの安定的な秩序に寄与することになる。無論、それは国政が担うべき外交・安全保障だけでは足りず、都市間連携、さらには企業間連携も必須であり、経済、交通、港湾、観光あらゆる面での協力体制を構築していく必要がある。

本視察においては、首都台北市をはじめ、新竹県、基隆市、桃園市等の各自治体関係者だけでなく、タイガーエアや桃園メトロといった企業、そして台湾日本関係協会、交通部といった政府系機関を訪問した。

自治体関係において、特に印象に残っているのは基隆市議会訪問である。同市議会の童議長から、神戸で開催した「WHO 西太平洋地域委員会」に台湾がオブザーバーとして参加することを支持する意見書を神戸市会が全会一致で可決し、その後、同様の意見書が全国の地方議会へも広がっていったことに対し、謝辞が述べられた。同市と神戸市は、山と港に挟まれた都市であるということで共通している。また、かつては両市を結ぶ航路が存在し、基隆から出航した船が日本に着いて初めて踏んだのが神戸の地であったとのことである。童議長からは、さらなる両市の交流の発展、及び姉妹都市や友好都市の提案がなされた。外交とは「国対国」のもものとされているが、このような都市間、ひいては市民間交流、言うなれば「草の根外交」が極めて重要であると感じた。

また外交においては、その国の価値観や文化の魅力で他国を魅了することによって理解や支持、共感を得る力である「ソフトパワー」という概念が存在する。ソーシャルメディアの発展によって、それぞれの国民が、障壁なく、オンライン上で交流することも当たり前になった。しかし、それだけでは足りず、やはりリアルの交流を行うことによって、日台両国民は、互いの感覚の近さを知り、また互いの課題も知ることで、ソフトパワーを共鳴させ合うことが可能となるのである。

桃園市は、桃園メトロと阪神電車のコラボなどをはじめ、神戸市との相互送客の促進に取り組んでいる。またタイガーエア等の航空会社や、台湾交通部の政府機関も、神戸空港国際化を見据え取り組みを進めている。このように官民含め様々なチャンネルを用いることで、経済交流及び観光を促進していくことこそが、ソフトパワー外交の基礎となると感じた。

特に神戸は、観光面において大阪や京都に比べ、外国人からの認知度がまだまだ低く、滞在日数も少ないことが課題とされている。神戸空港国際化が本格化する前に、台湾同様、日本と価値を同じくするアジア諸国との、多様なチャンネルを用いながら交流を加速させていく必要があると本視察を通じて確信した。関西経済圏と連携しながら、神戸含め関西がアジアのハブとなるよう、私自身、議員の立場からも努めていきたい。

## 日本維新の会神戸市会議員団 なんのゆうこ 所感

議連有志のメンバーとして2023年11月22日から25日までの4日間、経済、観光、港湾分野などにおける神戸市と台湾との連携強化と友好交流を促進するために訪問した。初めて訪れた台湾の印象は、高層ビルや商業施設、繁華街などが多く、景観形成や都市計画、交通インフラ整備ができていく地域が多かった一方で、開発が進んでいない地域も見受けられ、地域格差を感じた。

その他、台湾の女性議員の多さには驚かされた。2022年11月末に行われた「台湾統一地方選」では、当選した女性議員の割合は全体の37.6%と日本よりも多い。一方日本では、国会議員が15.6%、地方議員が15.1%と世界的に見ても圧倒的に少ない。

その要因の一つに「クォーター制」があるとされている。他の国では「クォーター制」の導入により、女性議員が増えた国も多く、人材の多様化によりジェンダー平等の意識がさらに高まるほか、特に出産や育児の分野などに対して社会全体が変わった国もあるようだ。

日本でもクォーター制導入に関して動きがあるが、まだまだ浸透していないのが現状である。ある台湾の女性議員との会話の中で印象的だったのが「日本は、まだ男女格差があるように思う」と言われたことだ。海外から見ると日本女性の社会進出が進んでいないと思われていることに、とても残念であった。もちろん、クォーター制には、メリットもあれば「逆差別」などのデメリットもある。それを踏まえた上で、日本の女性議員が増えればと切に思う。

最後に、坊議長や上島事務局長をはじめ、今回の台湾視察にご尽力いただいた方々に感謝申し上げます。

## まとめ

### 今回の台湾訪問の成果と今後の取り組みに関する所感

1985年に台中市議会と神戸市会の議員連盟間で友好交流の覚書を結び、相互に訪問を行って以降、近年のコロナ禍においても医療物資の支援や観光PRを相互に行ったほか、神戸市会においては台湾のWHOへのオブザーバー参加について意見書を決議するなど日台間の交流の維持・発展に積極的な貢献を行ってきたところである。また、我が議員団は2018年には「日台サミット」を神戸に誘致するなど神戸が日台交流の一大中心地となって来たとの感さえ抱かせるような状況となっている。このような努力の成果もあり、今回の訪台では基隆市議会から議会間同士の姉妹提携の提案を頂いたものと考え。

- (1) 近年の米中関係の緊迫化とロシアのウクライナ侵攻に伴い、台中海峡の緊迫化がかまびすしくなり、台湾の半導体産業が世界を席卷するまでに成長したことから我が国のサプライチェーンの確保や中国による軍事侵攻の可能性という観点から台湾との関係が論じられるきらいがあるが、今回の台湾自治体関係者との交流を通じ、日台交流においては地域的な交流を通じての心のふれあいの重要性がますます高まっていると実感した。特に、震災やパンデミックといった危機的な状況において、このようなつながりこそが極

めて重要な役割を果たすことをこれまで目の当たりにしてきたところである。

- (2) 今回の訪台の目的は神戸空港の国際化推進の観点から台湾航空会社の神戸空港への就航を促すことであったが、神戸空港の国際化は国際都市神戸が真の世界のゲートウェイになるうえで不可欠であるとの決意で臨む必要があると考える。今回の訪台を通じ、台湾の航空関係者との間で緊密な関係を築くことが出来たことは今後の神戸空港の国際化に弾みを与え、神戸と台湾各地との交流を益々発展させることにつながるものと確信する。
- (3) 今後の神戸と台湾との交流に関しては、神戸が持つ特性を活かして取り組みたい。特に長い歴史を有する港湾産業や今や有数の産業集積に育った医療産業と水素産業等の先端分野の交流、更には学術交流に加え、青少年交流や文化交流等、息の長い関係を築きたいと考えている。

以上